

研究活動報告

中国「少子化対策の経験に関するセミナー」

2021年4月20日(火)、中国国家衛生健康委員会人口家庭司、中国人口与發展研究中心、国連人口基金(UNFPA)の共催で、「少子化対策の経験に関するセミナー(低生育率対応経験検討会, Seminar on Experiences of Responding to Low Fertility)」が、北京会場とオンラインによるハイブリッド形式で開催された。中国の少子化の状況と合わせ、世界、アジア、韓国、ベトナム、日本における少子化対策の状況が報告された。筆者は日本の状況について報告を行った。

中国では2021年に決定された第14次5カ年計画の中に、政府文書としては初めて「適度生育水平」、つまり適度な出生率という言葉が用いられ、これまで下げるものであった出生率が、適度な水準に保つべきものとなった。今回のセミナーはそのような状況を踏まえてのものであり、UNFPAの共催で、他国の経験を検討する、という趣旨ではあったが、中国政府が少子化に関するセミナーを行うのはおそらく初めてのことであったのではないかと思われる。加速する高齢化と合わせ、少子高齢化が本格化してきたことをうかがわせる。(林 玲子 記)

台湾人口学会2021年大会

2021年4月24日(土)、「ライフコースと人口の持続性」をテーマに台湾人口学会年次大会が台湾会場(台北・台湾国立大学)とオンラインのハイブリッド形式で開催された。午前中は台湾高齢化に関する林萬億氏による基調講演に続いて、「経済、社会、人口と健康に対する新型コロナウイルス感染症のインパクト」と題する国際シンポジウムが、午後には合計12の平行セッションが実施された。

国際シンポジウムは、米国・カルフォルニア大学バークレー校ウィンストン・ツェン准教授、韓国・ソウル国立大学チョ・ヨンテ教授、台湾国立大学李柏翰助理教授、シンガポール国立大学アンジェリック・チャン准教授、香港大学ポール・イップ教授、日本は筆者が、各国にいながらにして一同に会し、台湾人口学会会長の陳端容教授の司会のもと、それぞれの国の新型コロナウイルス感染症流行の社会的・人口的なインパクトを報告・議論するもので、オンラインがあたりまえとなったからこそ実現可能となった有意義な会合であった。またカリフォルニア在住のチェン氏の報告は米国における反アジア人意識と格差についてのもので、米国と台湾をはじめとしたアジアとの強いつながりの光と影を示したもので、興味深かった。大会の内容は<https://pao2021.paotw.org/>に掲載されている。(林 玲子 記)

アメリカ人口学会2021年大会

アメリカ人口学会2021年大会(Population Association of America 2021 Annual Meeting)が5月5日~8日の日程で開催された。本大会は昨年の2020年大会に続き、COVID-19の蔓延防止対策の一環としてオンライン開催となった。オーラルセッションは計288あり、このうちフラッシュセッションが計18、招待講演セッションが計22であった。また、ポスターセッションは7つあり、計734の研究が報告された。